



# News Letter ☆ PIANC-Japan

## 国際航路協会 日本部会ニュース

August 2011 (Vol.11-1) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

---

### PIANC-Japan ホームページの更新

PIANC-Japan ホームページ (邦文、英文)  
(URL:www.pianc-jp.org) には新しいニュースが入り次第掲載していますが、6月21日の総会后、ホームページ全般の内容の更新をしていますのでご覧ください。  
なお、ホームページには「国際航路協会日本部会運営案内、2011年(平成23年)」も掲載していますので併せて参考ください。

### 須野原 豊氏が PIANC-Japan の新会長に就任

去る、6月21日に開催された国際航路協会に本部会 (PIANC-Japan) の総会において理事の選任が行われました。  
その後、新理事の互選により須野原 豊氏が川嶋会長に代わり新会長に就任いたしました。また、会長の指名により金澤 寛氏が引き続き副会長に就任されました。  
その他役員の構成は総会議案書に記載しています。  
なお、総会の資料ならびに議事録および活動報告会資料は PIANC-Japan のホームページの「会員専用ページ」に掲載していますのでご覧ください。

### 第2回 PIANC InCOM WG151 出張報告 (Impacts of seismic loads and vessel impact on lock gates)

港空研  
菅野 高弘

開催場所: KED Consultants, Gasstraße 18,  
Haus 4, 22761 Hamburg, Germany

出張期間: 2011年6月15日~2011年6月  
20日

参加者: Soeren Ehlers, Wim van Alboom,  
Peter Buffel, Loïc Buldgen, Hervé Le  
Sourne, Juan Ollero, Takahiro Sugano

内容:

- ・報告書目次(案)の審議, 修正 および各章・各節の担当者の決定, 執筆協力者名簿作成

- ・船舶の衝突解析に用いる Super Element Method についての発表 (Hervé Le Sourne)

- ・2011年東北地方太平洋沖地震・津波による被災, WG151 関連事項についての発表 (T. Sugano)

- ・種々の構造型式を持つ閘門についての発表 (Juan Ollero)



WG151 会議の様子



閘門取付部



オフィス屋上のテラスでの昼食

**現場見学：**

1) 建設中の水門

( Ernst-August-Schleuse, Bauprogramm Offesnt)の現場見学およびハンブルグポートオーソリティの現場責任者・設計者らとの質疑応答。



閘門操作室



現場責任者からの説明



閘門取付部



閘門本体



載荷装置



エルベ川支流側係留杭打設

2) Technischen Universität Hamburg-Harburg (ハンブルグ工科大学) の Ship Structural Design and Analysis 研究室 を訪問し, 船首部分の衝突実験および解析について Prof. Dr.-Ing. habil. Alexander Düster から説明を受け, 質疑応答。



船首部分 (左: 実験後, 右: 実験前)

3) エルベ川周辺に展開するハンブルグ港のコンテナふ頭, フローティングドック, 再開発による観光栈橋, エルベ川支流を結ぶ閘門などを見学した。

ハンブルグ港: エルベ川河口から約 100km 内陸部, ドイツ最大の港湾, ロッテルダム港に次ぐ欧州第 2 位のコンテナ荷役量, 7 バース: -16.7m, 10 バース; -16.5m, 4 バース; -16.7m, 4 バース: -15.2m)



18 列のコンテナ船 (遠景)



18 列のコンテナ船（近景）



フローティングドックで修理中の船舶